

実務能力基準表
[社会人リテラシー]
概要説明

Ver. 1.1

2012年5月

特定非営利活動法人 実務能力認定機構

はじめに

急激な環境変化の中で、企業は事業構造の改革を推進できる人材を求め、そのために必要になる実務能力を把握すべくその評価制度の確立を進めています。社会に人材を送り出す各種教育機関にも、従来からの知識・学識の醸成に加えて、こうした実務能力の育成に意を注ぐことが求められています。

こうした観点から産学連携が円滑に行われ、その中で個人の意志による長期的な学習計画に基づくキャリアアップが行われるようになることで、我が国の資産である人材の効果的な育成と活用により国際競争力が向上していくと期待されます。

上記を具現化する社会インフラとして、実務能力認定制度が必要であり、その運営組織として、2003年産学官の賛同を得て、特定非営利活動法人実務能力認定機構(ACPA)が設立されました。実務能力認定制度の骨格は以下の3点です。

- ◇企業・経済団体等の人材要件を分析し、職種に必要なスキルを反映した実務能力基準表を整備する。
- ◇実務能力基準表に基づき、教育機関の講座品質および効果を認証する。
- ◇認証した講座の履修合格者には、その証明としてスキル認定を行う。

実務能力認定機構(ACPA)は、既に「IT分野」「ビジネス分野」「語学(英語)」の実務能力基準表を作成のうえ公開し、数多くの講座認証を行い、スキル修得者に対する個人認定(スキル認定証明書の発行)を通じて人材育成を支援して参りました。しかしながら、これらの専門分野のスキルを活かす前提として、社会人としての基本的な資質能力の育成が急務となっています。

この度、大学生および社会人若年層を対象とした、「業種・職種に係らず、どの職業でも仕事をするために共通に必要なとされるスキル・能力」を、社会人リテラシーとして定義し、実務能力基準表を作成しました。

この基準表は、社会で仕事をするため必要とされる能力として、「業務遂行能力(テクニカルスキル)」「対人関係能力(ヒューマンスキル)」「概念化能力(コンセプチュアルスキル)」の3つの能力に「社会人基礎力」を加えて、4つのカテゴリで構成しています。また「業務遂行能力(テクニカルスキル)」においては、既存の「IT分野」「ビジネス分野」「語学(英語)」など専門分野の基準表における基礎スキル部分を包含しています。

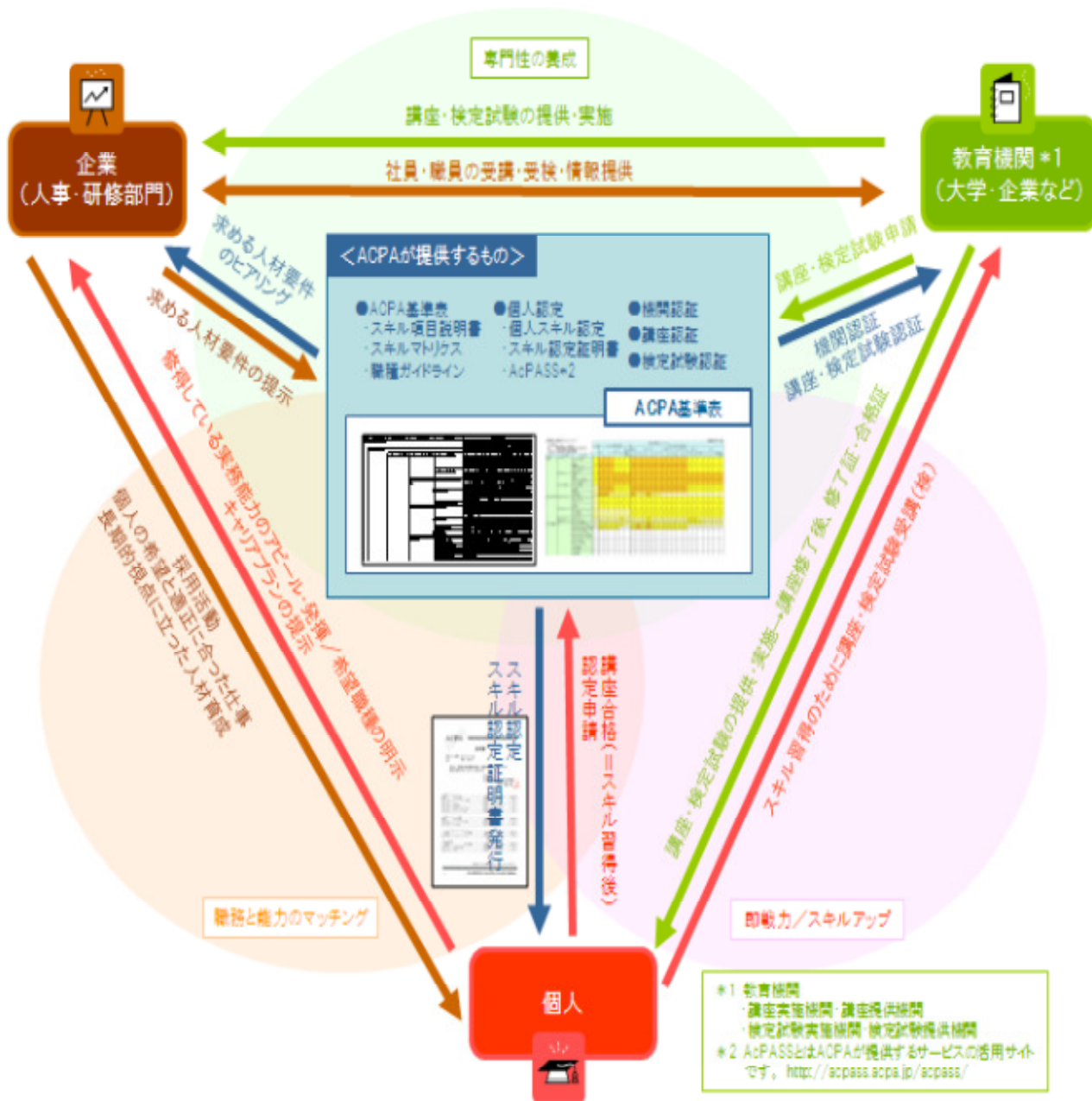
各大学においては、大学設置基準の改正に伴い、従来からのキャリア形成支援活動に加え、「大学生の就業力育成事業」等により、その強化を図っておりますが、今後益々、キャリア育成科目等の充実が要請され、大学提供科目等により育成するスキル内容および学生が修得したスキル内容の明確化が必要となります。この基準表の活用(実務能力認定制度)を通じて、大学提供科目等のスキル内容の明確化ならびに教育の質保証が行われ、また、学生が社会で必要となるスキル体系を理解したうえで、自身が修得するスキルの位置付けを意識することで、社会人としての人間力形成の気づきを得ることを期待いたします。

1. ACPA

1.1 ACPAとは

実務能力認定機構（ACPA）は内閣府から認証を受けた特定非営利活動法人（NPO 法人）である。

企業・大学など教育機関・官公庁の賛同のもと、2003年に設立され、産学官連携による新しい教育システムと実務能力認定制度を確立し、社会が求める人材の育成を支援することをミッションとして掲げ活動している。



1.2 ACPA実務能力基準表

- ・ 特定非営利活動法人 実務能力認定機構（以下、当機構という）は、実務で求められる知識、スキルを実務能力基準表という形で整理し、実務講座/検定試験を認証し、認証実務講座の受講修了または認証検定試験に合格した個人に対してスキル認定を行うことを活動目標としている。
- ・ 実務能力基準表は、職種に対して求められる具体的なスキルの要件を職種とスキルの関係で記述しテーブルとして表示したスキルマトリクスと、スキル項目を詳細に記述したスキル項目説明書からなる。
- ・ スキルマトリクスでは、職種とスキルの相関表として、ある職種に求められる人材のスキル要件をマトリクス上で表記し可視化している。
- ・ スキル項目説明書では、スキルの分類項目とスキル要素を詳細に記述している。
- ・ 既に公開されている実務能力基準表は下記の通りである。
 - IT 分野：2006 年度サービス開始
 - ビジネス分野：2007 年度サービス開始
 - 語学（英語）分野：2010 年度サービス開始
- ・ これまでのIT 分野、ビジネス分野の実務能力基準表においては、専門分野のスキルに加え、社会人として必要な基礎能力も部分的に含まれていた。しかし今回作成した社会人リテラシー基準表においては、「業種・職種に係らず、どの職業でも仕事をするために共通に必要なとされるスキル・能力」を前提として体系化し、大学生および社会人若年層を対象として単独で活用することはもちろん、IT 分野、ビジネス分野の実務能力基準表と併用させることにより、専門人材の育成にも役立つことを考慮した。

2. 社会人リテラシー基準表

2.1 社会人リテラシー基準表作成の背景

(1) 産業界が求める「人材像」と大学への期待

産業界においては、新卒学生に対して求めるスキル・能力として以下の項目が上位ランクに挙げられており、大学教育へもその養成を求めている。(付録参照)

- ・論理的思考力や課題解決能力を身につける
- ・チームを組んで特定の課題に取り組む経験
- ・実社会や職業との繋がりを理解させる教育
- ・職業意識や勤労観醸成に役立つプログラム
- ・専門分野に関連する他領域の基礎知識も身につける
- ・一般教養の知識を身につける
- ・ディベートやプレゼンテーションの訓練
- ・外国語によるコミュニケーション能力を身につける
- ・異文化理解に繋がるような体験

(2) 文部科学省は、「大学生の就業力育成支援事業」(*1)などを通じて大学・短期大学等のキャリア教育支援を強化

(*1)「大学生の就業力育成支援事業」：各大学・短期大学における、産業界等との連携による実学的専門教育を含む、学生の卒業後の社会的・職業的自立に向けた新たな取組を国として支援するもの。

<東京女学館大学の事例>

2008年度から卒業成長値を高める「10の底力」プログラムを実施。社会人として求められる10の基礎力——(1)コミュニケーション能力(2)プレゼンテーション能力(3)ディスカッション能力(4)国際感覚・多文化理解能力(5)外国語運用能力(6)調査能力(7)IT能力(8)クリティカル思考(9)コンセプチュアルスキル(問題発見・提案・実行力)(10)自己理解能力——の向上を意識しながら講義を展開し、それぞれの到達度を基に、キャリアカウンセラーが学生に授業選択のアドバイスを行っている。

(3) 大学教育においても実務能力教育講座が拡充傾向

<早稲田大学の事例>

学部の枠を超えて多様な教育を実施する「オープン教育センター」において、『卒業準備プログラム』講座を提供

◇社会人実践準備コース

- ・「ソーシャルスキル」講座
- ・「ビジネススキル」講座
- ・「コンプライアンス」講座
- ・「法務」講座
- ・「インターンシップ」講座

◇ビジネスインテンシブコース

- ・「論理的思考法による問題解決の基礎」講座

- ・「ビジネスのためのロジカルライティング」講座
- ・「問題解決の理論と実践」講座

(4) 教育関係企業による大学のキャリア教育支援活動

大学のキャリア教育をサポートする教育関係企業により、各種実務教育講座やeラーニングコンテンツ等が多数提供されている。これらの講座内容および習得できる知識、スキル・能力について第三者機関が評価し、大学に対し評価情報の提供を行うことが重要である。

2.2 基準表の活用目的

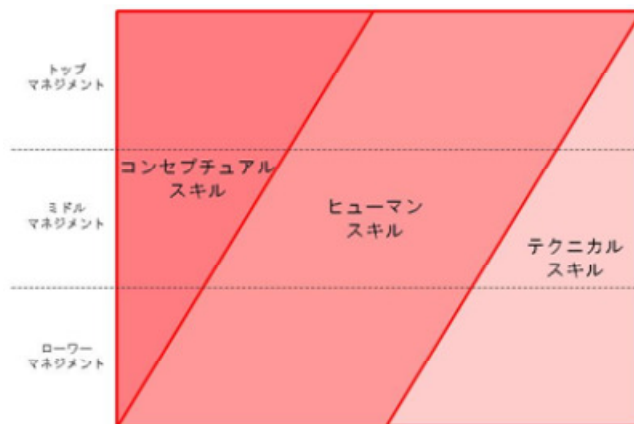
- ① 社会人リテラシーを向上させる目的の講座や検定試験について、第三者の立場で修得内容を明確にして公開することにより講座/検定試験の修得目標、修得レベルが明確になる。
- ② 講座認証された講座を受講修了することで個人の修得スキルを第三者機関として証明することができる。
- ③ 検定試験認証された検定試験/認定試験に合格することで個人の修得スキル(保有スキル)を第三者機関として証明することができる。
- ④ 社会で仕事をする上で必要とされる基礎的な能力の体系を理解し、学生および若年社会人が自己の能力向上の一つの指標にすることができる。

2.3 基準表構成の考え方

社会人リテラシー基準表は次に示す考え方で作成されている。

(1) 基本能力と一般能力

- ・「基本能力」として“社会人基礎力”を採用し、「一般能力」として業種、職種に係らず、どの職業でも仕事をするために共通に必要なとされるスキル・能力を対象にする。
- ・「一般能力」のスキル項目はカツモデルで分類する。
- ・本基準表の対象は大学生および社会人若年層であり、「一般能力」のカツモデル分類では下部領域に位置するスキルレベルとなる。



(補足-1) カッツモデルについて (株式会社アートクロジーのHP より)

「マネージャーに求められる能力」をロバート・カッツ氏がまとめた非常にわかりやすいモデルである。能力は大きく3つに分けられる。

① テクニカルスキル

業務遂行能力、つまり業務を遂行する上で必要な知識やスキルという能力。

② ヒューマンスキル

対人関係能力、つまり人対人のコミュニケーションや葛藤処理などを行う能力。

③ コンセプチュアルスキル

概念化能力、つまり周囲で起こっている事柄や状況を構造的、概念的に捉え、事柄や問題の本質を見極めていく能力。

経営層 (トップマネジメント) に近づくほど、③のコンセプチュアルスキルが求められ、監督者 (ローワーマネジメント) であるほど①のテクニカルスキル (業務遂行能力) が求められるというものである。

しかし、このモデルはマネジメントする側だけに求められるものではなく、本来はどの階層でも仕事をしている人間にとって必要な能力を表しているわかりやすいモデルである。

一般社員は、ローワーマネジメントの下に位置するので、業務遂行というものをマネジメントするというよりも、自分自身をセルフマネジメントして、業務遂行能力を高めるということが求められるであろう。

また、どの階層においても、重要な能力がヒューマンスキルである。新入社員に求められるものは、業務遂行能力と対人関係能力。中間管理職に求められるものが、対人関係能力をベースとして、業務遂行能力と概念化能力の両方であって、中間管理職の中でも上位になればなるほど、概念化能力が求められるのである。

(補足-2) 社会人基礎力

「社会人基礎力」とは、経済産業省によって「職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力」(「社会人基礎力」) を定義された「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力。

(2) 既存基準表との関係

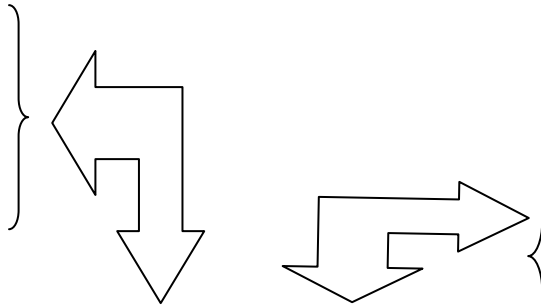
- ・ 本基準表で示す「基本能力」は、『業種、職種に係らず、どの職業でも仕事をするために共通に必要なとされるスキル・能力』であることから、「IT 分野」「ビジネス分野」など専門分野の基準表にも包含される。
- ・ 同様に「一般能力」のヒューマンスキルとコンセプチュアルスキルは、専門分野の基準表にも包含されるが、対象者の幅 (社会人中堅社員を含む) が異なることからスキルレベルの幅も異なる。
- ・ 本基準表のテクニカルスキルは、既存の「IT 分野」「ビジネス分野」など専門分野の基準表における基礎スキル部分に包含される。

ビジネス分野基準表

ビジネス共通
パーソナルスキル
行動規範
IT 利用
情報活用
経営企画
人事・労務・能力開発
法務・総務・広報
経理・財務
：
：

IT 分野基準表

IT 基礎
インターネット
ビジネスツール
コンピュータ基礎
パーソナルスキル
コミュニケーション
リーダーシップ
ネゴシエーション
ビジネススキル
ビジネス基本
法務
営業
：
：
システム基盤
データベース
ネットワーク
：
：



語学（英語）基準表

初心者 A1
言語知識
コミュニケーション運用能力
テキスト
初級 A2
：
準中級 B1
言語知識
コミュニケーション運用能力
テキスト
中級 B2
：
準上級 A1
：
上級 A2
：

基本能力
社会人基礎力
一般能力
ヒューマンスキル
コミュニケーション
セルフマネジメント
リーダーシップ
コンセプチュアルスキル
クリティカルシンキング
企画・計画
テクニカルスキル
情報リテラシー
ビジネススキル
異文化コミュニケーション
外国語運用能力 (B1)
統計リテラシー

社会人リテラシー基準表



2.4 社会人リテラシー基準表の構成

能力分類	カテゴリ	中項目	小項目
基本能力	社会人基礎力	社会人基礎力	前に踏み出す力(アクション)
			考え抜く力(シンキング)
			チームで働く力(チームワーク)
一般能力	ヒューマン・スキル	コミュニケーション	ビジネスマナーの基本
			ビジネスコミュニケーションの基本
			対人コミュニケーション
			対人コミュニケーション実践
			インタビュー
			アンケート
			ネゴシエーション
			ファシリテーション
			ビジネス文書
	ビジュアルドキュメンテーション		
	ビジネスeメール		
	英文ビジネスeメール		
	プレゼンテーション		
	ディベート		
	読解		
	セルフマネジメント	行動倫理	
		ストレスコントロール	
		目標管理	
	リーダーシップ	リーダーシップ	
	コンセプチュアル・スキル	クリティカルシンキング	クリティカルシンキングの基本姿勢
			論理的思考と論理的な問題解決
			論理的思考と論理的な伝え方
			論理的思考と論理的な文書作成
		企画・計画	企画
			戦略
			計画
	テクニカルスキル(共通)	情報リテラシー	コンピュータの基本
			ネットワークの利用
			情報倫理
			情報セキュリティ
			情報検索・文献検索
			レポート・論文の作成
			口頭発表(プレゼンテーション入門)
			データ分析入門
			Web/アプリツィング入門
			ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)入門
	ビジネススキル	ビジネスコンプライアンス	
		ビジネス著作権	
		情報セキュリティ	
	異文化コミュニケーション	文化とコミュニケーション	
		対人関係とコミュニケーション	
		組織における異文化コミュニケーション	
		異文化のレトリック	
		異文化交渉と通訳	
		カルチャー・ショックと適応過程	
	外国語運用能力【英語「準中級」】B1		話すこと
			書くこと
			話すことの方法
			聴いて理解する
			読んで理解する
			見て、聴いて理解する
			意味を把握する方法
			言葉で対話する
			文書で対話する
			対話の運用方法
	統計学基礎(統計リテラシー)		データの分布と指標
			回帰分析と時系列分析基礎
			確率基礎
			推測統計基礎
			実験計画
			コンピュータを利用した分析

(注) ACPA 講座認証およびスキル認定はスキル小項目単位となる。

- ① 全体の能力分類を、基本能力と一般能力にわけ、基本能力には社会人基礎力の3つの能力を小項目として定義した。
- ② 一般能力には3つのカテゴリで分類した。(ヒューマン・スキル、コンセプチュアル・スキル、テクニカル・スキル)
- ③ 中項目はACPA独自の分類で重要と思われるスキル中項目を入れた。
- ④ テクニカルスキルは「業務を遂行する上で必要な知識やスキルという能力」と定義されているが、ここでは業務の種類にかかわらず共通的な知識やスキルを定義した。
 - ・ ビジネスのグローバル化に伴い、どのような業務であっても外国語運用能力は必須である。就業力基準表における外国語運用能力(英語)はACPA基準表で設定しているB1レベル(準中級)の能力が必要であると定義した。B1レベルは“自立した言語使用者(Independent User)”の下位レベルに相当する。国際ビジネスを担当するには最低B2レベル(中級)の英語運用能力が必要と言われている。
 - ・ ビジネスのグローバル化に伴い、語学力に加えて異文化の理解も重要であり、異文化コミュニケーションを加えた。
 - ・ 現代社会においては、統計的なものの考え方や統計分析の手法が極めて重要になってきている。一人ひとりが統計的な考え方(統計リテラシー)を持つことが不可欠になってきている。この観点から、統計関連学会連合で実施されている統計検定試験2級(大学基礎科目レベル)程度の知識・スキルを入れた。

2.5 スキルマトリクス

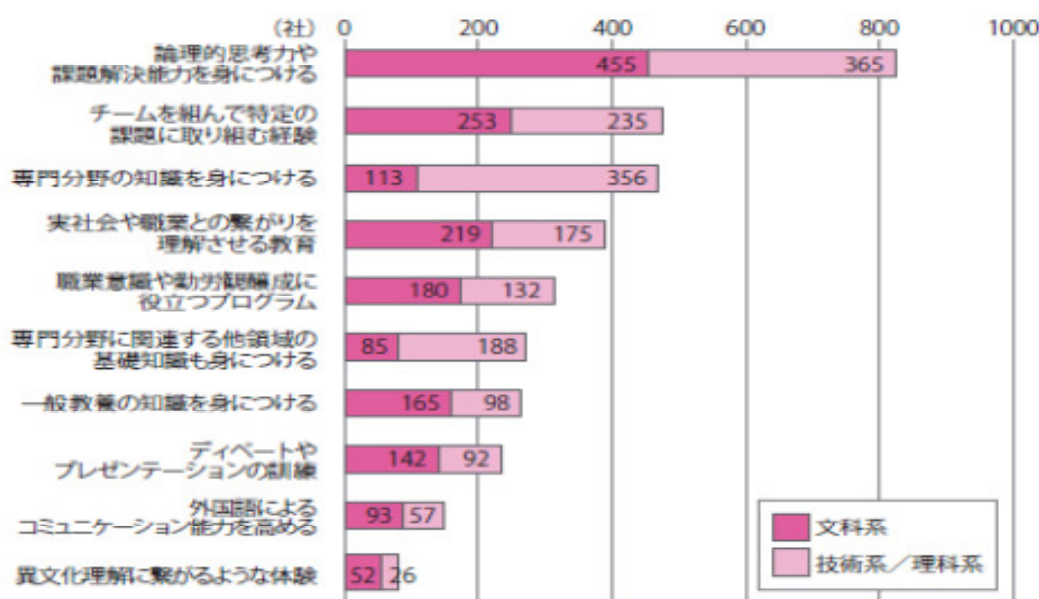
スキルマトリクスは、職種レベルとスキル項目のレベル到達度で示すものである。社会人リテラシーの場合、職種に係わらず共通であるので、職種に分けることをせずに就業経験の程度をレベルのみで示す。レベル0は入社前、レベル1は入社後1-2年、レベル2は入社後3-5年である。各レベルのレベル到達度を3段階で示す。

■実務能力基準表スキルマトリクス(社会人リテラシー)				入社前	入社1～2年	入社3～5年	
分野	カテゴリ	中項目	小項目	レベル0	レベル1	レベル2	
スキル到達度 ★……………概要を理解している。(概要理解、基本的な事項を概略理解している。 ★★……………高い内容を理解し、応用できる。(部分的単独実践可能)、細かい事項についても深く理解している。 ★★★……………活用し、実践できる。(単独実践可能)、事項の内容をよく理解していて全体の繋がりを説明できる。 (注)★:必要、☆:業務に応じて必要なものを選択							
基本能力	社会人基礎力	社会人基礎力	前に踏み出す力(アクション)	★★	★★★	★★★	
			考え抜く力(シンキング)	★★	★★★	★★★	
			チームで働く力(チームワーク)	★★	★★★	★★★	
一般能力	ヒューマン・スキル	コミュニケーション	ビジネスマナーの基本	★★	★★	★★★	
			ビジネスコミュニケーションの基本	★★	★★	★★★	
			対人コミュニケーション	★★	★★	★★★	
			対人コミュニケーション実践	★	★★	★★★	
			インタビュー		★★	★★★	
			ネゴシエーション		★★	★★★	
			ファシリテーション	★	★★	★★★	
			ビジネス文書	★★	★★★	★★★	
			ビジュアルドキュメンテーション	★	★★	★★	
			ビジネスeメール	★★	★★	★★★	
			英文ビジネスeメール	☆	☆☆	☆☆	
			プレゼンテーション	★★	★★	★★	
			ディベート		★	★★	
		セルフマネジメント	行動倫理	★★	★★★	★★★	
			ストレスコントロール		★★	★★★	
			目標管理	★	★★	★★★	
		リーダーシップ	リーダーシップ		★	★★	
		コンセプチュアル・スキル	クリティカルシンキング	クリティカルシンキングの基本姿勢			
				論理的思考と論理的な問題解決	★	★★	★★★
				論理的思考と論理的な伝え方			
				論理的思考と論理的な文書作成			
		企画・計画	企画				
			計画		★★	★★★	
	戦略						
テクニカルスキル(共通)	情報リテラシー	コンピュータの基本	★★	★★★	★★★		
		ネットワークの利用	★★	★★★	★★★		
		情報倫理	★★	★★★	★★★		
		情報セキュリティ	★★	★★★	★★★		
		情報検索・文献検索	★★	★★★	★★★		
		レポート・論文の作成	★★	★★★	★★★		
		口頭発表(プレゼンテーション)入門	★★	★★★	★★★		
		データ分析入門	★★	★★★	★★★		
		Webパブリッシング	★	★★	★★		
		ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)	★	★★	★★		
		ビジネススキル	ビジネスコンプライアンス	☆	☆☆	☆☆☆	
			ビジネス著作権	☆	☆☆	☆☆☆	
		異文化コミュニケーション	文化とコミュニケーション				
	対人関係とコミュニケーション						
	組織における異文化コミュニケーション		☆	☆☆	☆☆☆		
	異文化のレトリック						
	異文化交渉と通訳						
		カルチャア・ショックと適用課程					
	外国語運用能力【英語『準中級』】B1 TOEICスコア:565相当	話すこと	書くこと(Written Production)B1				
			話すことの方法(Production Strategy)B1				
			聴いて理解する(Listening)B1				
			読んで理解する(Reading)B1				
			見て、聴いて理解する(Audio Visual Reception)B1	★	★★	★★	
意味を把握する方法(Reception Strategy)B1							
言葉で対話する(Spoken Interaction)B1							
文書で対話する(Written Interaction)B1							
対話の運用方法(Interaction Strategy)B1							
統計学基礎(統計リテラシー)	データの分布と指標						
	回帰分析と時系列分析基礎						
	確率基礎	★	★★	★★			
	推測統計基礎						
	実験計画						
	コンピュータを利用した分析						

以上

〈付録〉

大学教育に期待するもの



出典：日本経済団体連合会「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果」（回答社数/文科系=592社、技術系/理科系=580社）

①=人間関係・感情

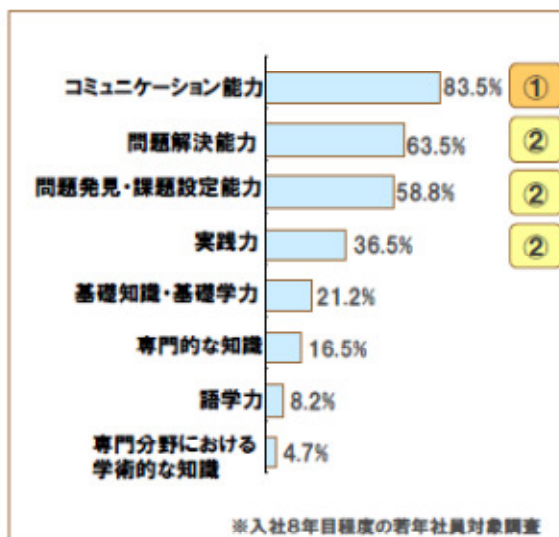
②=思考・問題解決

〈企業のトップが考える「ビジネスに必要な力」〉



出所：経済同友会「若者が自立できる日本へ」

〈職務経験を通して実感する重要な力〉



※入社8年目程度の若年社員対象調査

出所：(財)産業研究所「産業界から見た大学の人材育成評価に関する調査」2004年 11